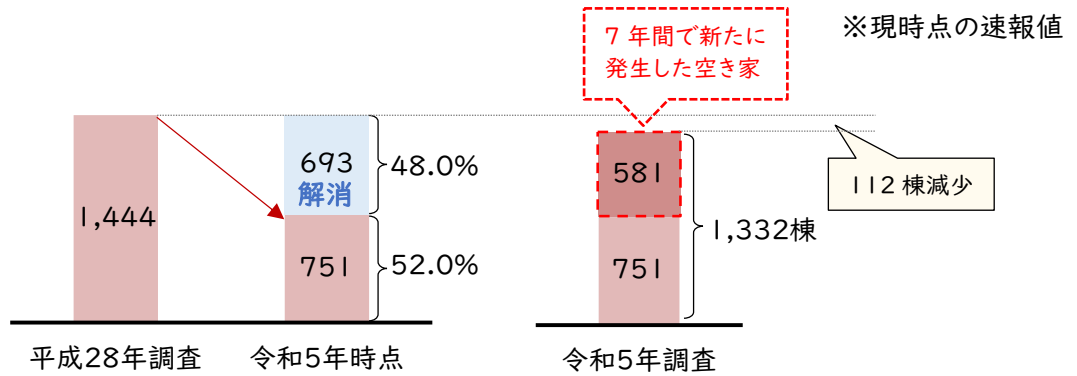


空き家を取り巻く状況(追加)について【速報版】

(1) 空き家の棟数と解消状況

- ・平成 28 年度に実施した「生駒市空き家等実態調査」では 1,444 棟の空き家が確認された。令和 5 年時点で、そのうちの約 48%にあたる 693 棟は売却や解体などにより、空き家状態が解消したことを確認している。
- ・令和 5 年度の新規の空き家調査の結果、平成 28 年以降の 7 年間で 581 棟※の空き家が新たに発生し、空き家の総数は 1,332 棟※となっている。

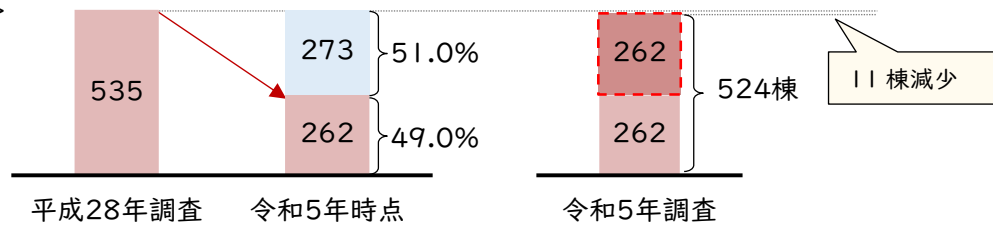


(2) 地域別の空き家の棟数と解消状況

- ・主要住宅地、既成市街地における平成 28 年時点の空き家に対する解消率はともに 50%前後であるが、主要住宅地では既成市街地と比較して新規空き家の発生数が多い。
- ・一方、田園集落は空き家の解消率は主要住宅地、既成市街地より低いが、空き家の発生数も少なく、この 5 年間で空き家数は減少傾向にある。
- ・空き家特措法の改正により、自治体による空家等活用促進区域の指定が可能になったが、本市ではいずれの地域においても空き家の解消が進んでいることから、現時点では指定の必要性は低いと考えられる。

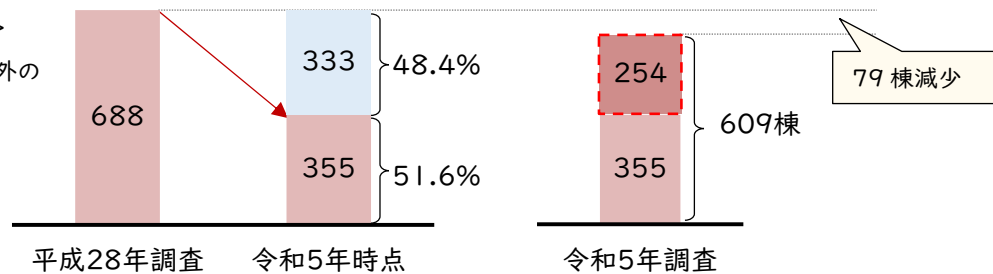
<主要住宅地>

※ P.2 参照



<既成市街地>

※主要住宅地以外の市街化区域



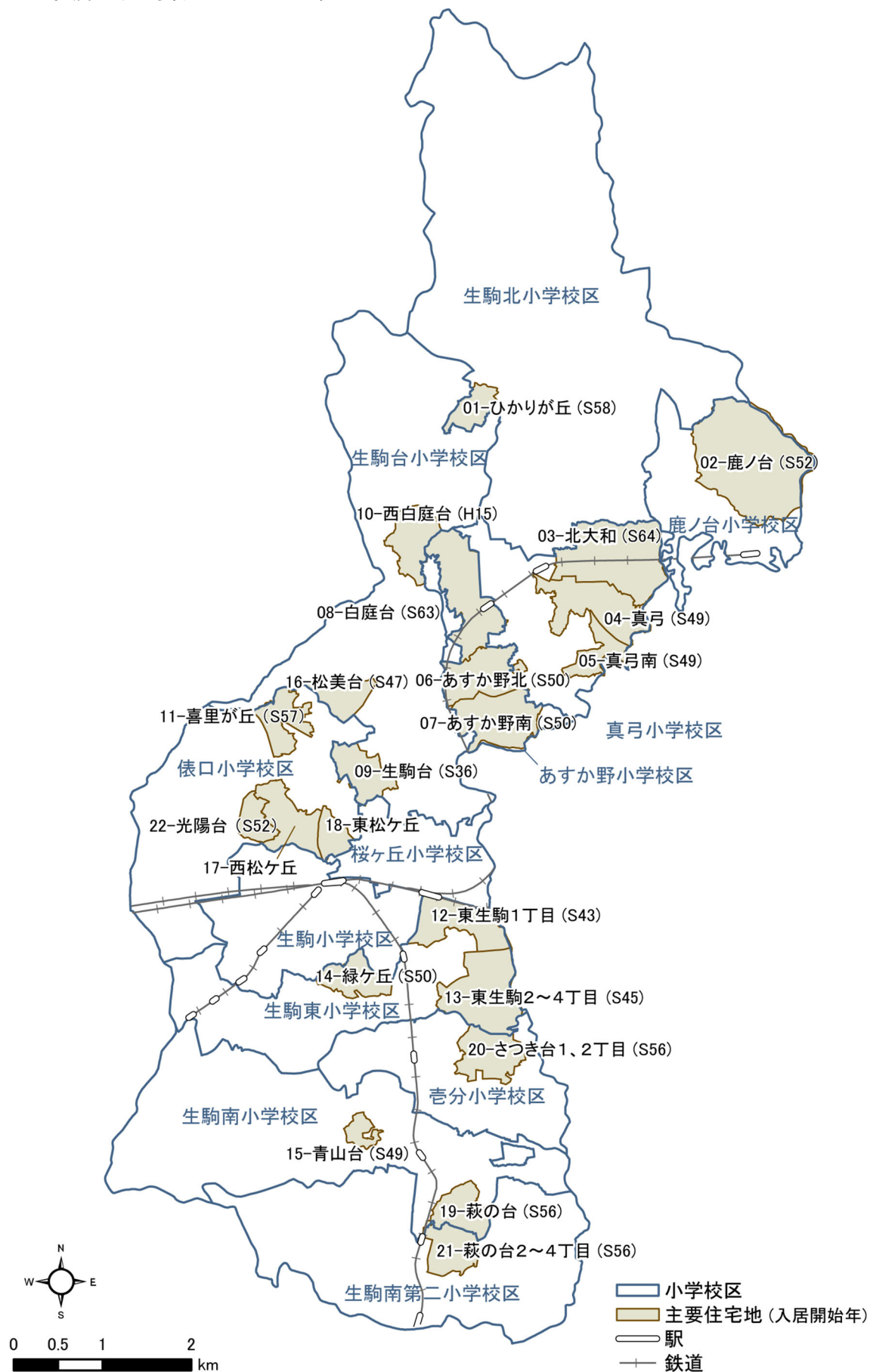
<田園集落>

※市街化調整区域



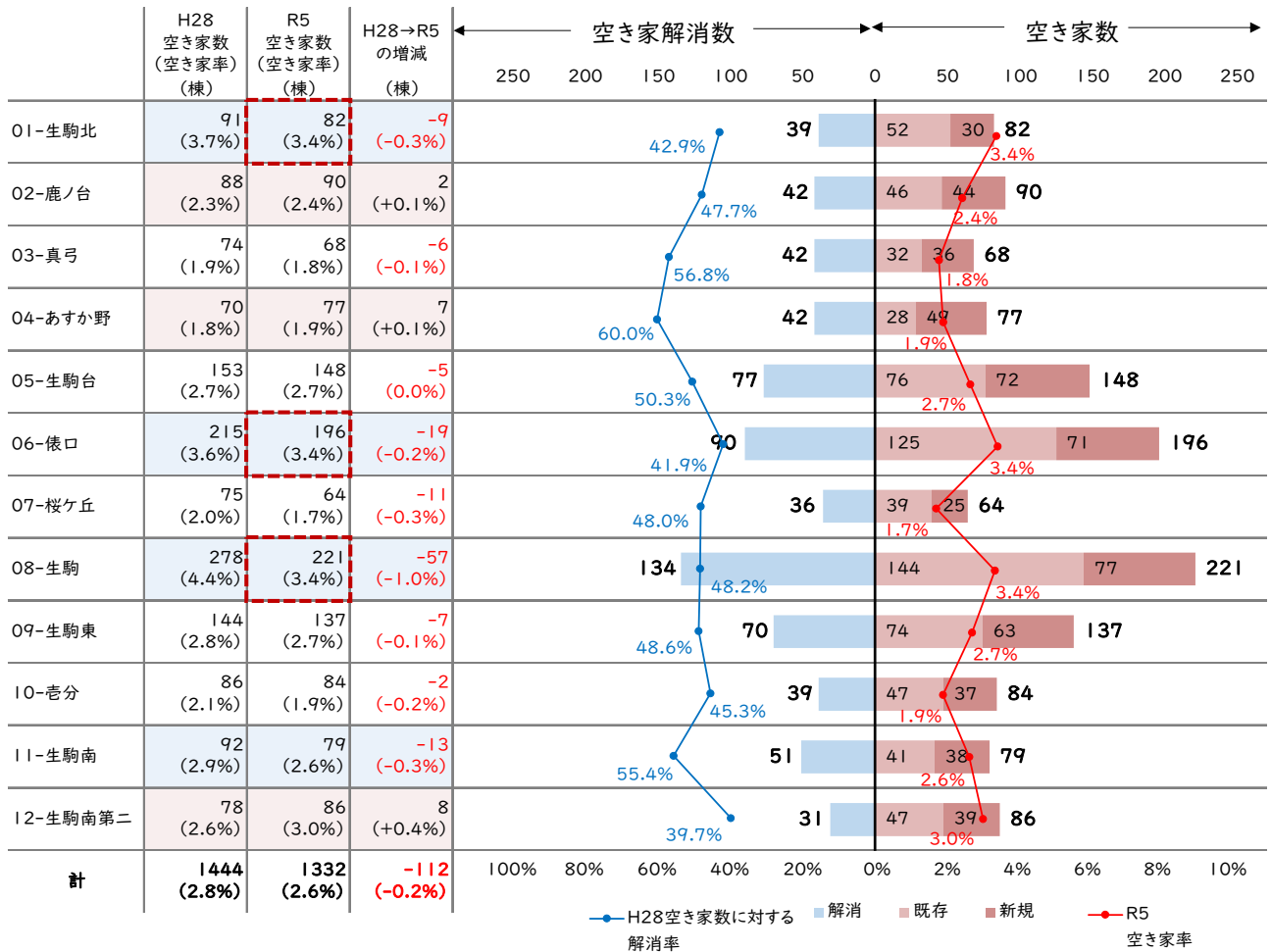
(3) 地域別の空き家の発生状況

<小学校区、主要住宅地の区域>



<小学校区別の空き家数>

- ・空き家率は、生駒北小学校区と俵口小学校区、生駒小学校区が 3.4%と最も高く、4%以上の小学校区はない。
- ・平成 28 年時点の空き家率が市平均よりも高かった生駒北小学校区、俵口小学校区、生駒小学校区、生駒南小学校区においては、空き家の解消が進み、空き家率が減少している。
- ・一方で、平成 28 年時点の空き家率が市平均よりも低かった小学校区のうち、鹿ノ台小学校区、あすか野小学校区、生駒南第二小学校区においては、空き家率が増加している。



<主要住宅地別の空き家数(既成市街地、田園集落は除く)>

・空き家率は、西松ヶ丘が6.5%と最も高く、松美台が4.9%、萩の台2~4丁目が4.2%、生駒台、萩の台、東生駒2~4丁目が4.1%と4%以上となっている。

・平成28年時点の空き家率が比較的高かった主要住宅地においては、空き家率が概ね減少している。

